

# 新春対談

**小鍛治** 本日はよろしく  
お願い致します。実は福山さんとの新春対談は二回目なのですが、きょうと教組の組合員も六年前と比べると三分の一が新しいメンバーになっていきます。あらためての自己紹介をお願いします。

**福山** 参議院議員の福山哲郎です。きょうと教組のご縁は、二〇数年前に「子どもたちのために何かできることがないか」と勉強会を共に開いたことから始まりました。以来、「ともに闘い、ともに教育をよくする」という思いを持って、少人数学級の実現や教育格差の是正、生きづらい社会の解消などについて、国会で提言・議論をしてきました。

ぜひ、このような活動をしている政治家が京都にいることを、皆様知っていただければと思います。

## この四年間を振り返って

**小鍛治** 排除の論理を掲げた希望の党との合流に際して、「枝野立て！」の声に応えた枝野さんと一緒に立憲民主党を結党してからの四年間を振り返って、いまどう考えておられますか。

**福山** 立憲民主党の立ち上げの際は、皆様から様々なご意見をいただきました。

しかし、私は、安保护法に反対する一〇万人の方々が国会前に集われた際に、「立憲主義と民主主義、平



身、社会を変えていく政治家でありたいと思っています。

## 今の日本社会の課題は

**小鍛治** 今の日本社会を見て、これから取り組んでいきたい問題は何ですか。

**福山** まず、私は、気候変動の問題に二〇年間取り組んできました。次の世代に責任を持つという意味においても、継続して取り組んでいきたいと思っています。

また、経済面では、格差の問題が喫緊の課題だと感じています。とりわけ、格差の問題は、子どもたちの学習に直結する重要な課題です。格差が是正され、子どもたちが安心して学ぶことのできる社会を創っていかねければならないと思っています。

何より障がい者やLGBTの方々など、すべての人々が生きやすい社会を創っていかねければならないと思っています。

この二年間、コロナの影響を受け、日本社会の傷み方は深刻です。今後、どのようにコロナで傷んだ社会を立て直していくかが、政治が果たすべき大きな役割だと考えています。

**小鍛治** 今後どのような活動をされる予定なのか、具体的に教えてください。

**福山** 先に述べた諸課題を解消するために、一議員として現場を歩きたいと思っています。様々な課題について、現場の声を聴き、現場の現実を国会に届けていきたいと思っています。

私自身、一議員として、政権与党を経験し、各省庁との関係を築くことができました。そうした経験を糧にしながら、皆様のお役に立てるよう活動をしていければと考えています。

## 日政連議員の役割とは

**小鍛治** 日教組が国会に

送っている日政連議員が果たしている役割について、どのように感じておられますか。

**福山** 水岡俊一議員は、現在参議院議員会長を務めておられますが、学校現場での経験を活かしながら、文科省とコミュニケーションを密にとり、時には各政党の方とも非常に上手く連携をされています。その意味で、文科行政を議論する際、日政連議員の皆さんは学校現場の実態をよく知る者として政策を的確に伝え、円滑に政策を実現していく上で、大きな役割を果たしていると感じています。

また、あなたにや議員の後継として、古賀ちかげさんが参議院選挙に出馬される予定ですが、古賀さんとお話をしていて印象に残っているのは、約二〇年間にわたって、臨時採用という立場を経験されていたということですね。そして、古賀さんは福岡県で臨時採用教職員の組織化を図り、臨時採用教職員が抱える課題を顕在化されたと聞いています。古賀さんには、次は国会の場で、教育行政の矛盾解消について取り組んでいただきたいと考えています。

**小鍛治** きょうと教組においても、非正規の立場の組合員が増加しています。古賀さんのような経験を古賀さんの方が、立憲民主党から参議院議員に立候補することは、私たちにとても非常に大きなことだと感じています。

**福山** 小泉政権以降、非正規雇用の割合が高くなっています。ぜひ、古賀さんには、そのような立場の人の思いを代弁してもらいたいと考えています。

## 参議院選挙にむけて

**小鍛治** 今年の夏には、参議院選挙が控えています。参議院選挙にむけての決意を聞かせてください。

**福山** きょうと教組の皆様には、いつも温かいご支援をいただき御礼申し上げます。

私は、この四年二か月の間、立憲民主党の幹事長として、役割を担ってきました。そのため、地元である京都よりも東京にいることのほうが多かったように感じています。

そういったことを踏まえて、私が最初にやるべきことは、まず地元京都を歩きななおすことだと考えています。

街頭演説に立っている時、たくさんの方から激励をいただきます。やはり、地元京都に帰って来ることはいいことだなあと感じます。一方で、厳しい課題を伝えていただくこともあります。やはり、そのような厳しい課題を国会に届けなければならぬと感じています。

そうした原点に戻った活動の中で、まずはこの二〇年の間に私が取り組んできたことを皆様に知っていただき、今後もご支援をいただけるのであれば、全力で国会で仕事をしていきたいと考えています。私の姿を京都で見かけられましたら、ぜひ声をかけていただければと思います。

本日はありがとうございます。ありがとうございました。

